

いろいろな船 [貨物を運ぶ船]

船はさまざまな貨物を運んでいます。原油、LNG(エル・エヌ・ジー/液化(えきか)天然ガス)、鉄鉱石(てっこうせき)、穀物(こくもつ)、自動車、雑貨(ざっか)など、その形や大きさもいろいろです。それぞれの貨物の持ちように合わせて、もっとも安全で効率的(こうりつてき)な輸送(ゆそう)方法を追求した結果、いろいろな専用船(せんようせん)が生まれました。また、大量輸送を効率的に行うための大型化も進んでいます。そんな個性豊かな専用船を紹介(しょうかい)しましょう。

【総(そう)トンと重量トン】

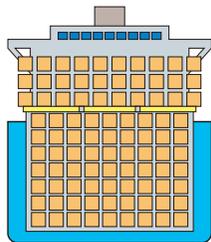
総トン数は、船の大きさ(容積(ようせき))を表す単位。重量トン数は、満さいきつ水線の限度(げんど)まで貨物を積んだ時の全重量から船自体の重量を差し引いたトン数であり、燃料(ねんりょう)・水・食料などの重量をふくむが、船が積める貨物の重量を示(しめ)す目安となる。

- 水を積むバラスタック
- 積み荷スペース
- 荷役装置(にやくそうち)

暮(く)らしを運ぶ船

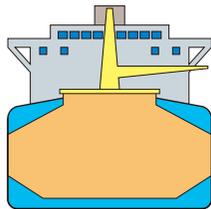
コンテナ船

貨物船の中では最速をほこる雑貨輸送(ざっかゆそう)の専用船(せんようせん)。衣類や電気製品(せいひん)などの生活雑貨から、危険(きけん)品まで多種多様な貨物を、国際規格(こくさいきかく)のコンテナに収納(しゅうのう)して運ぶ。大型の船は、コンテナを約10,000個も積める。



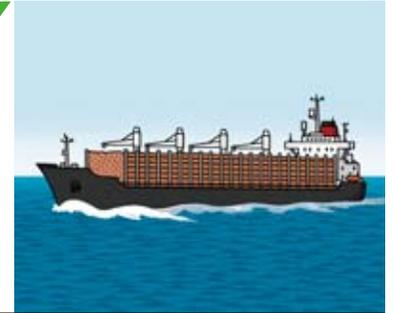
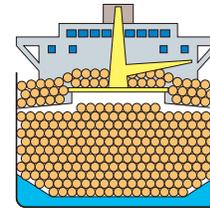
ばら積み船

穀物(こくもつ)や石炭などを、ふくろや箱につめずに、そのまま船倉に入れて運ぶ。貨物の流動を防(ふせ)ぐため、船倉上部に傾斜(けいしゃ)をつけ、トップサイドタンクという三角形のバラスタックを設置(せっち)している。



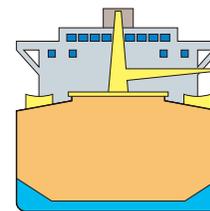
木材専用船(もくざいせんようせん)

木材を専門(せんもん)に運ぶ船。貨物は船倉内だけでなく甲板(かんぱん)上にも積まれ、甲板積みの木材は両舷(りょうげん)に建てられたスタクションと呼(よ)ばれる支柱(しちゅう)で左右を推(お)さえ、じょうぶなワイヤーで固定される。



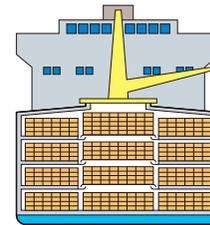
チップ専用船(せんようせん)

製紙(せいし)原料となるチップ(木材をくだいた小さなかけら)を専門(せんもん)に運ぶ。チップは比重(ひりゅう)がきわめて小さいため、船倉容積(ようせき)を最大限(さいだいいげん)にして大量に積みこむとともに、バラストスペースを船底部に設(もう)けている。



冷凍運搬船(れいとううんぱんせん)

野菜や果物、冷凍肉、鮮魚(せんぎょ)などの生鮮食品(せいせんしょくひん)を低温輸送(ていおんゆそう)する。野菜や果物のように常温(じょうおん)に近いものからマイナス50℃という超低温(ちやうていおん)が必要な冷凍マグロまで、輸送温度(ゆそうおんど)の異なる(こと)なる貨物を積み分けて運べる。



エネルギーを運ぶ船

原油タンカー

原油を運ぶ専用船(せんようせん)。複数の区画に仕切られたタンク状(じょう)の船倉を持ち、事故の時に原油が海に流れ出るのを最小限(さいしょうげん)におさえるため、船側と船底を二重構造(こうぞう)化している。現在(げんざい)は30万重量トン級が主力。

